

アセットブレインズ仙台ネットワーク

資産活用をサポートするコンサルティング活動を行っているアセットブレインズ仙台ネットワーク(事務局・仙台市泉区上谷刈1の7の35 佐々木正之事務局長)は、5月18日の14時から17時まで、仙台市青葉区春日町のせんだいメディアアテーク7階スタジオシアターで、「不動産市場動向セミナー2018 仙台」をオープンセミナー(参加費無料)として開催する。

居住用および投資・事業用不動産市場の動向に

動産投資と収益物件の検査サイトを運営する健美家の倉内敬一代表取締役

宮城県の居住用不動産の最新事情や今後の見通しについて解説する。また、第3部は、同ネットワーク事務局長の佐々

首都圏・仙台圏の最新不動産事情について解説

5月18日14時せんだいメディアアテーク

オープンセミナーを開催

ついでに専門家が解説する。セミナーは3部構成で、第1部では首都圏の投資用不動産の最新動向と金融情勢について、不

が説明する。第2部では、元リクルート仙台支社長の佐々木篤シーカーズブランド代表取締役が、仙台

木正之ナカリエステート常務取締役が、仙台・東北圏の投資用・事業用不動産の最新事情を説明する。

◆ 定員は1000人で、セミナーへの参加希望者は、企業名、部署・役職、参加者名、住所、電話・FAX番号、Eメールアドレスを記入の上、

①FAX 022-371-6880 または、②Eメール asset-d@acanone-net.jp まで申し込む。問い合わせは、アセットブレインズ仙台ネットワーク事務局 ☎022-773-6685。

アセットブレインズ仙台NW

オープンセミナーに約1770人が参加

資産活用をサポートするコンサルティング活動を行っているアセットブレインズ仙台 ネットワーク(事務局・仙台市泉区上谷刈1の7の35 佐々木正之事務局長)は18日、仙台市青葉区のせんだいメディアテークで「不動産市場動向セミナー2018 仙台」を3部構成のオープンセミナーとして開催し、不動産や金融、建設業関係者など約1700人が聴講した。

第1部では首都圏の投資用不動産の最新動向と金融情勢について、不動産投資と収益物件の検索サイトを運営する健美家の倉内敬一代表取締役が講演した。倉内代表は自社のサイトへアクセスしてくるユーザーの実数が2011年1月の約10万からことし3月には約50万にまで拡大するほど、近年の不動産投資市場が活況を呈している状況を説明。最近の投資家の特徴として「女性の比率が全体の15割にまで達し拡大傾向にある」と話した。また、「ことし4月に行ったアンケートでは、不動産の買い時と売り時はい

首都圏・仙台圏の最新不動産事情を説明

ずれも19年と20年までと考えている投資家の比率が高い」と、全国の中では「名古屋市および周辺の高利回り物件への反響が大きく市場が特に活発である状況」と述べた。

元リクルート仙台支社長の佐々木篤シーカーズプランニング代表取締役は、第2部で仙台・宮城県の居住用不動産の最新事情や今後の見通しについて解説。佐々木代表は国内の専業主婦世帯と共働き世帯数が95年を境に逆転し、17年では前者が64.1万世帯、後者が11.88万世帯であることを前提に「家族構成の変化が通勤時間を短く、つまり仕事場から近いところに居住する傾向を強めた。必要とさ

れる場所の密度が高まり、地価に大きな影響を与えている」と指摘。仙台圏の分譲マンション市場については「マンションストック数は約8万戸、約17万人が居住している。このうち築20年を超えるマンションは約4.7万戸で、この中でさらに築30年を超えるものが約1.8万戸ある。築30年以上は今後さらに増加し37年にはストック数の約66.8割になると推測され、大規模修繕やリノベーション需要が増加する」との予測を示した。

第3部では、同NW事務局長の佐々木正之ナカリエスリート常務取締役が、仙台・東北圏の投資用・事業用不動

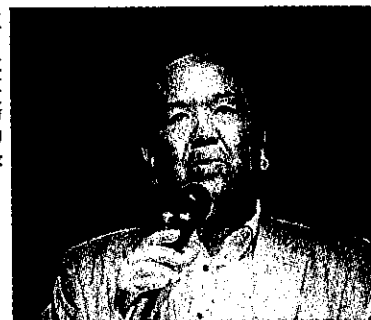
産の最新事情を説明。佐々木事務局長は地方創生に資する不動産流動化・証券化事例として、東北では岩手県紫波町のオガールプロジェクトや山形県鶴岡市の東京第一ホテル鶴岡他改修事業などが実行されたことを挙げ「東北の地銀がこれらプロジェクトにノンリコースローンを提供するなど、地方都市にも不動産証券化手法が浸透してきている」ことを強調した。また仙台圏の不動産投資市場は「高値安定の高原状態が続いている」ことをいくつかの取引事例とともに示し、購入者側の意欲が旺盛な一方で「慢性的な物件不足が続いている状況である」とも語った。



倉内代表



佐々木代表



佐々木事務局長